

# 東商けいきょう集計結果

(中小企業の景況感に関する調査)

平成22年7～9月期

## 【主なポイント】

### ～景況は回復にやや足踏み感、先行きへの警戒高まる～

- 「業況DI」(全業種)は、前年同期比で前回調査に比べ+0.4ポイントと横ばいとなり、5期続いた回復傾向にやや足踏み感が見られる。来期見通しでは6期ぶりに悪化に転じ、先行きへの警戒が高まっている。
- 「売上DI」(全業種)と「採算DI」(全業種)は、前年同期比では改善したものの、「採算DI」(全業種)では来期見通しでマイナス幅が拡大した。
- 「資金繰りDI」(全業種)は、前年同期比でマイナス幅が大幅に拡大。「民間金融機関の貸出姿勢DI」(全業種)は、前年同期比、今期水準ともにマイナス幅が拡大、2期連続した改善傾向から悪化に転じた。年末に向けて資金確保が困難となる企業の増加も懸念される。

## 【調査要領】

○調査期間：平成22年8月25日～9月1日

○調査対象：東京23区内の中小企業2,367社

○調査項目：業況、売上、採算(経常利益)、資金繰り、民間金融機関の貸出姿勢

○調査方法：FAXおよび経営指導員による聴き取り

○回答数：922社(回答率39.0%)

※有効回答企業の業種別構成

- |                   |                     |                   |
|-------------------|---------------------|-------------------|
| ・製造業 252社 (27.3%) | ・建設業 113社 (12.2%)   | ・卸売業 132社 (14.3%) |
| ・小売業 123社 (13.3%) | ・サービス業 302社 (32.8%) |                   |

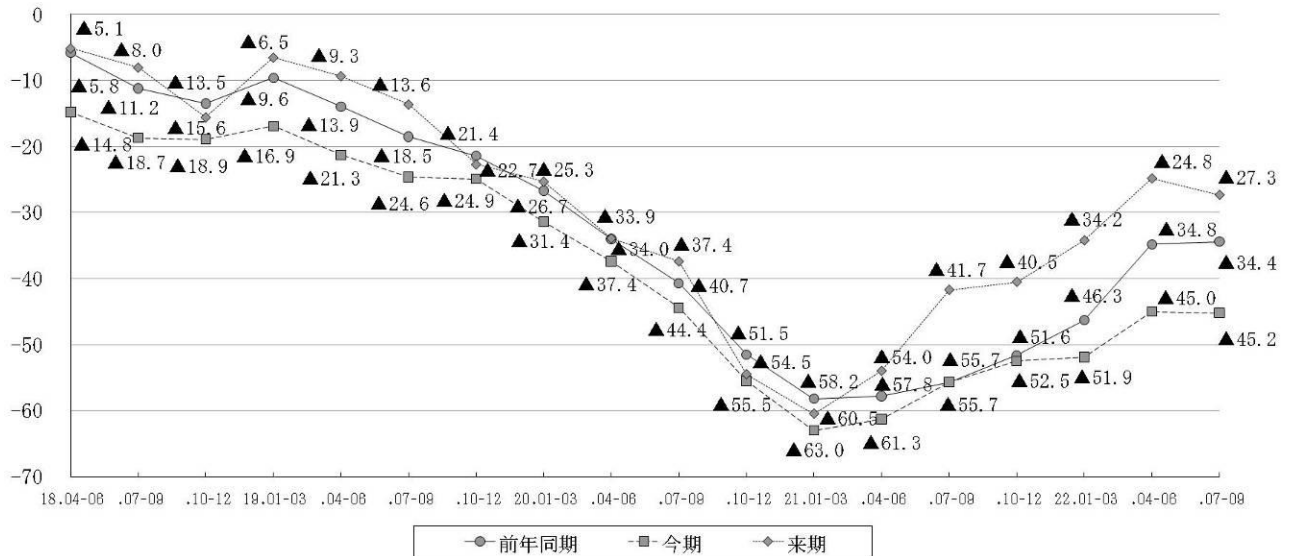
平成22年9月

東京商工会議所 中小企業部

# 1. 業況

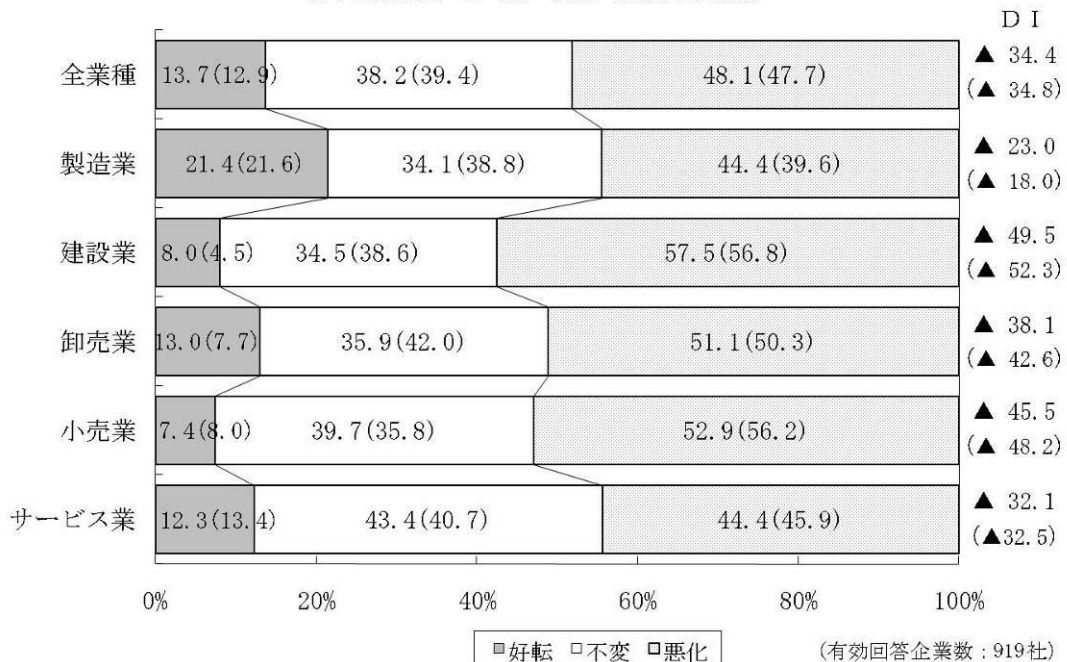
○「業況DI」（全業種）は、前年同期比、今期水準ともに横ばいとなり、5期連続した回復傾向にやや足踏み感が見られた。来期見通しでは6期ぶりに悪化に転じ、先行きへの警戒が高まっている。製造業では前年同期比と来期見通しで5ポイント以上悪化した。

業況DIの推移（全業種）



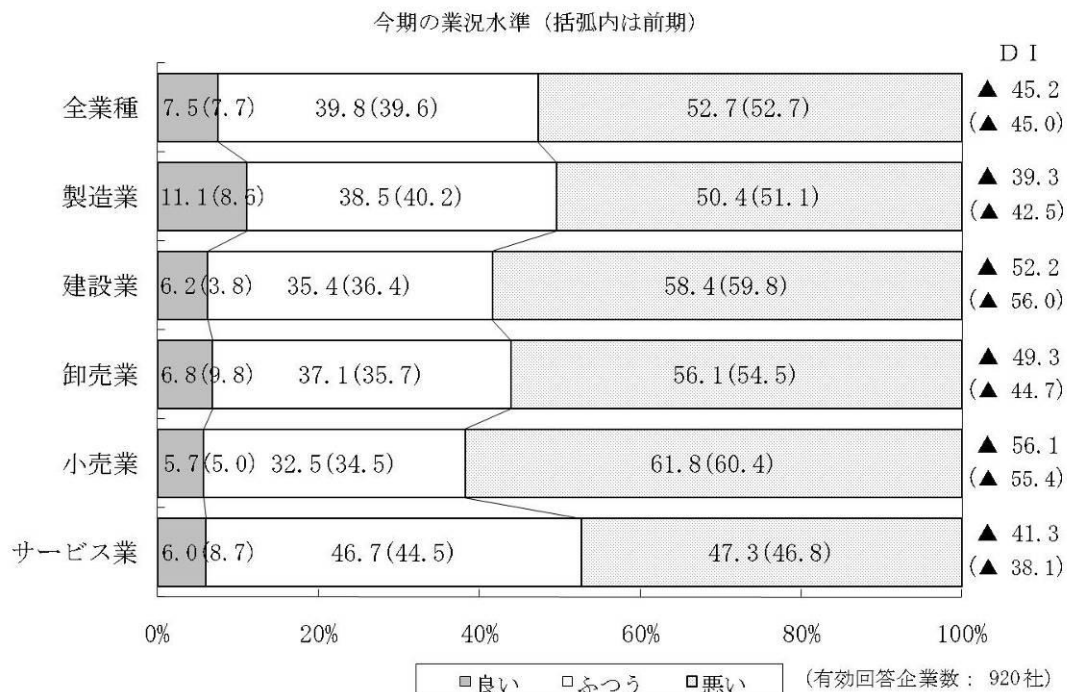
【質問1】前年同期（平成21年7～9月期）と比べた今期（平成22年7～9月期）の業況（自社）はどうか。

前年同期と比べた今期の業況（括弧内は前期）



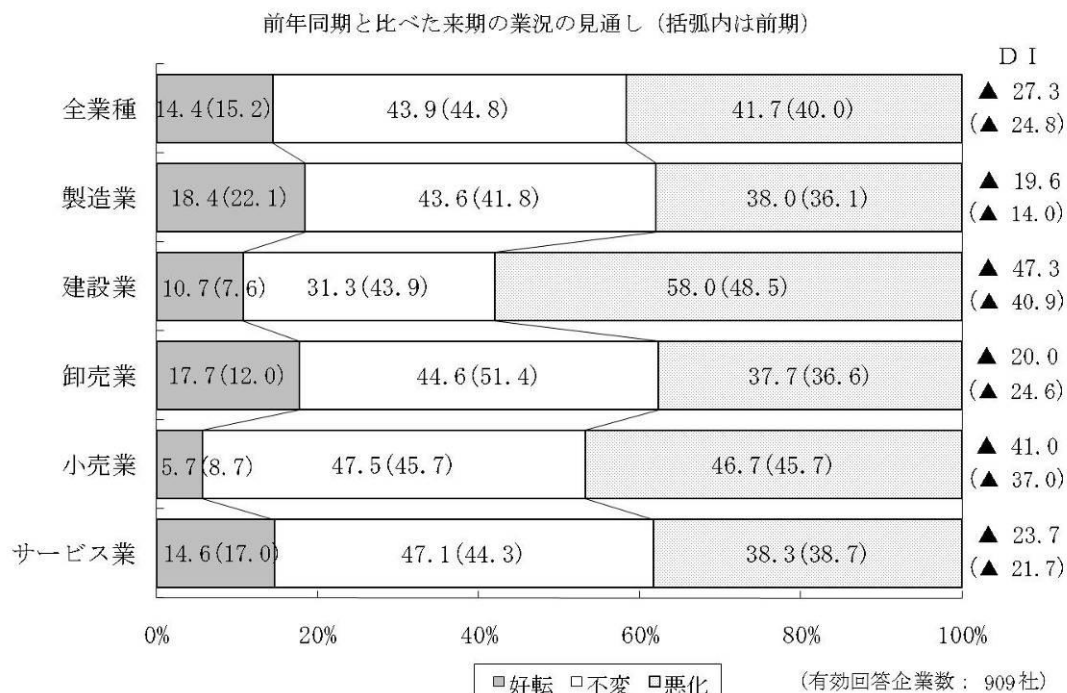
- ・全業種の「前年同期と比べた今期の業況DI」は前回調査に比べ+0.4ポイント（▲34.8→▲34.4）とほぼ横ばいとなった。
- ・製造業では前回調査に比べ-5.0ポイント（▲23.0→▲18.0）とマイナス幅が拡大した。建設業・卸売業・小売業ではマイナス幅が縮小、サービス業ではほぼ横ばいとなった。

【質問2】 今期（平成22年7～9月）の業況（自社）水準をどのように感じますか。



- ・全業種の「今期の業況水準 DI」は前回調査に比べ-0.2ポイント（▲45.0→▲45.2）とほぼ横ばいとなった。
- ・製造業と建設業ではマイナス幅が縮小、卸売業・小売業・サービス業ではマイナス幅が拡大した。

【質問3】 前年同期（平成21年10～12月期）と比べた来期（平成22年10～12月期）の業況（自社）の見通しはどうか。

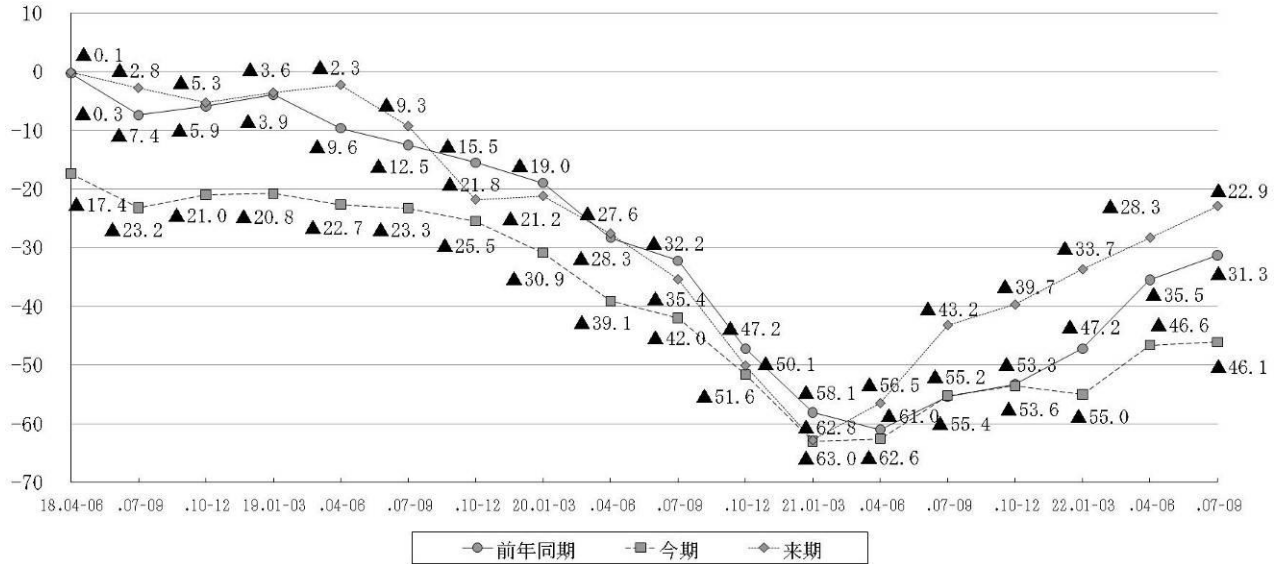


- ・全業種の「前年同期と比べた来期の見通しDI」は前回調査に比べ-2.5ポイント（▲24.8→▲27.3）とマイナス幅が拡大した。
- ・卸売業を除くすべての業種でマイナス幅が拡大した。特に製造業と建設業では前回調査に比べ5ポイント以上悪化しており、先行きへの強い警戒感がうかがえる。

## 2. 売上

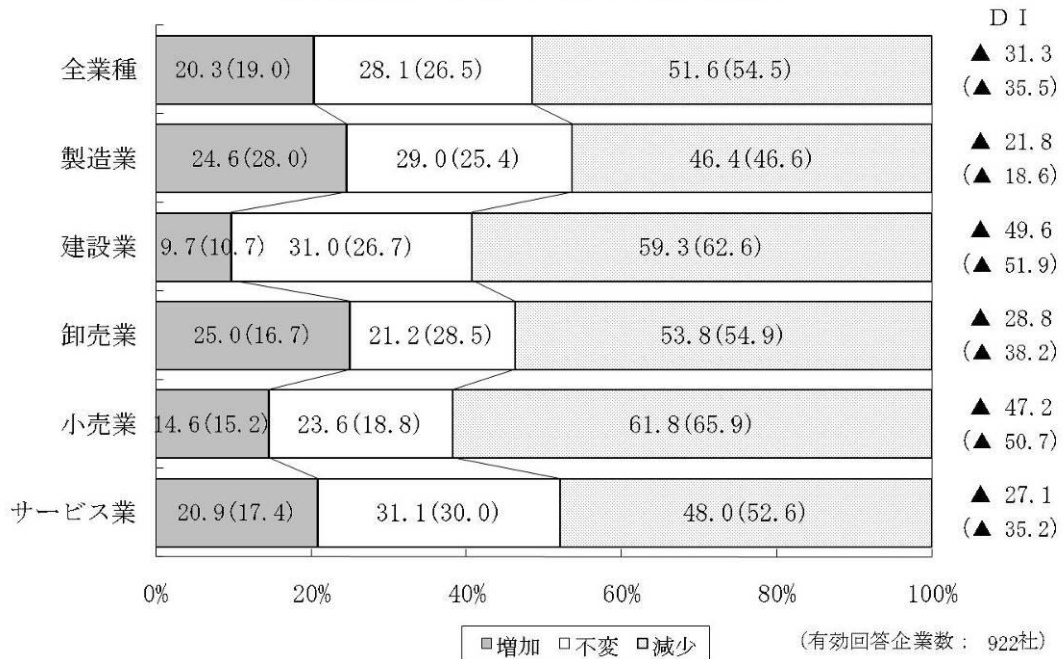
○「売上DI」(全業種)は、前年同期比では5期連続マイナス幅が縮小したものの、今期水準では横ばいとなった。来期見通しでは6期連続マイナス幅が縮小した。前年同期比では卸売業、来期見通しでは建設業が大幅に改善した。

売上DIの推移(全業種)



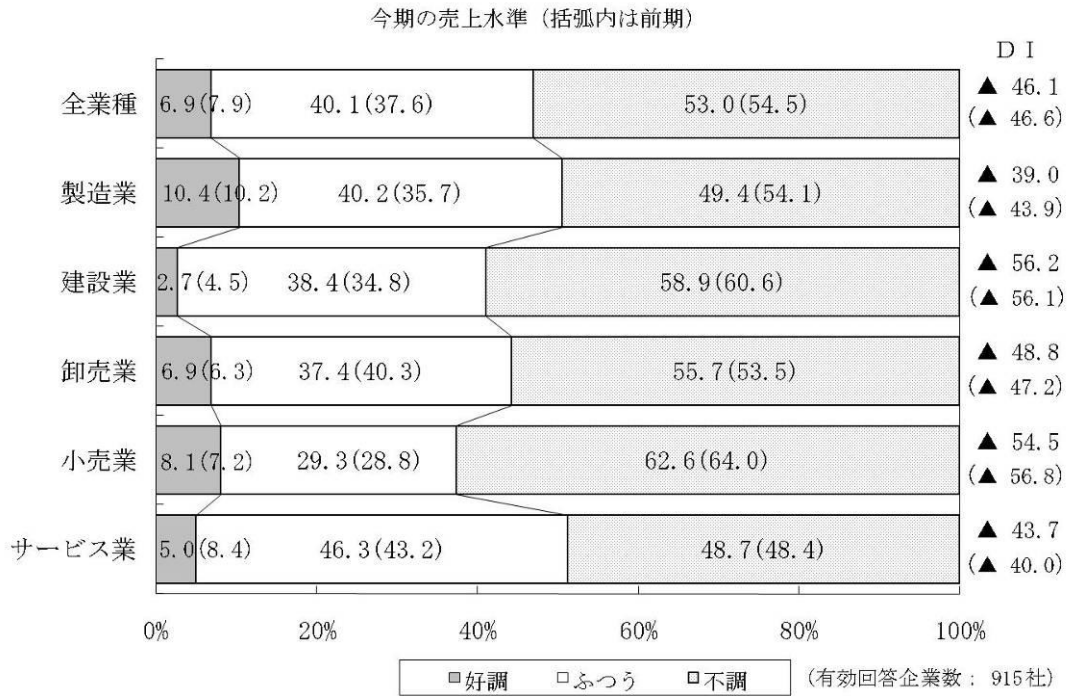
【質問4】前年同期(平成21年7~9月期)と比べた今期(平成22年7~9月期)の売上状況はどうか。

前年同期と比べた今期の売上状況(括弧内は前期)



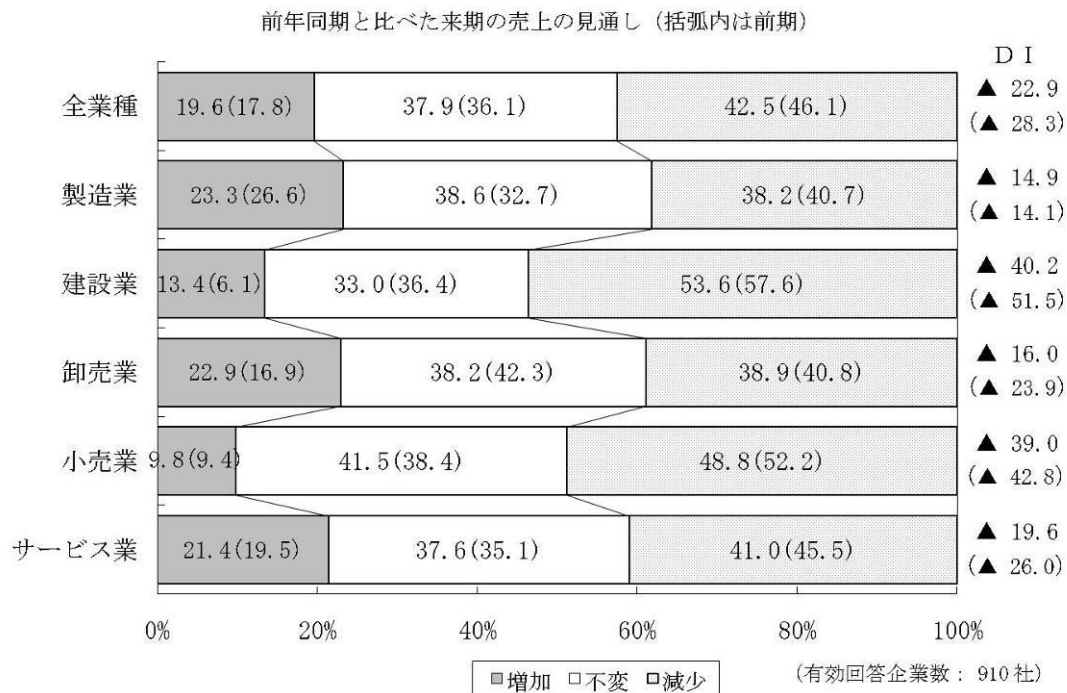
- ・全業種の「前年同期と比べた今期の売上DI」は前回調査に比べ+4.2ポイント(▲35.5→▲31.3)となり、5期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・製造業を除く全ての業種でマイナス幅が縮小した。特に卸売業では前回調査に比べ+10.6ポイント(▲38.2→▲28.8)と大幅な改善が見られた。

【質問5】 今期（平成22年7～9月期）の売上水準をどのように感じますか。



- ・全業種の「今期の売上水準DI」は前回調査に比べ+0.5ポイント（▲46.6→▲46.1）とほぼ横ばいとなった。
- ・製造業と小売業ではマイナス幅が縮小、建設業では横ばい、卸売業とサービス業ではマイナス幅が拡大した。

【質問6】 前年同期（平成21年10～12月期）と比べて来期（平成22年10～12月期）の売上の見通しはどうか。

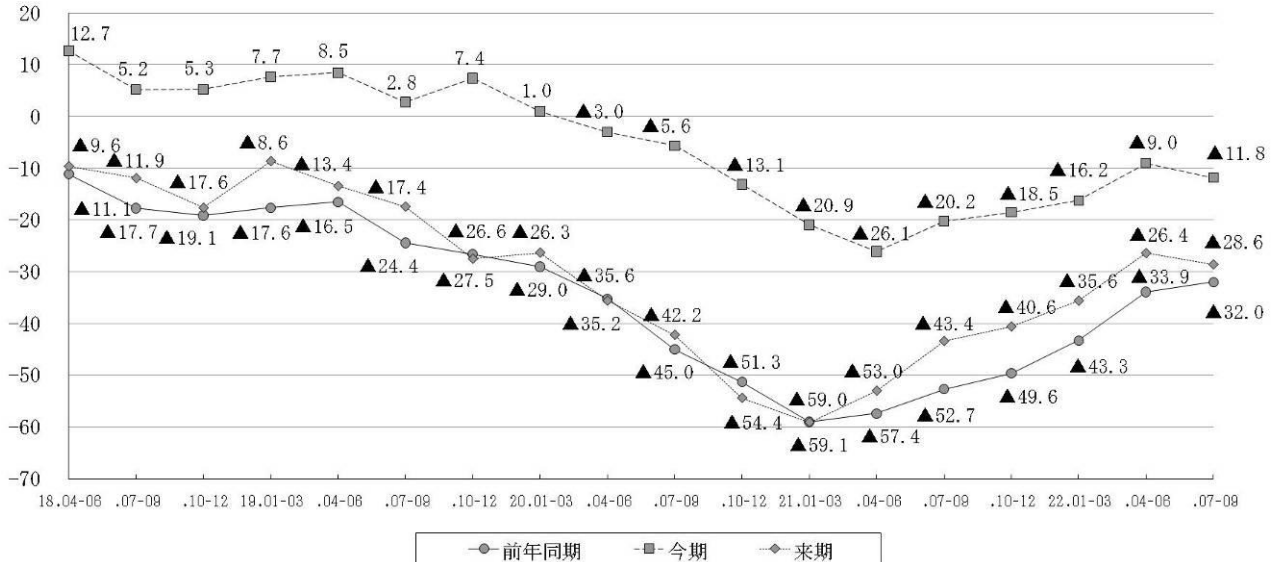


- ・全業種の「前年同期と比べて来期の売上見通しDI」は前回調査に比べ+5.4ポイント（▲28.3→▲22.9）となり、6期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・製造業でわずかにマイナス幅が拡大したものの、その他の業種ではマイナス幅が縮小した。特に建設業では前回調査に比べ+11.3ポイント（▲51.5→▲40.2）と大幅な改善が見られた。

### 3. 採算（経常利益）

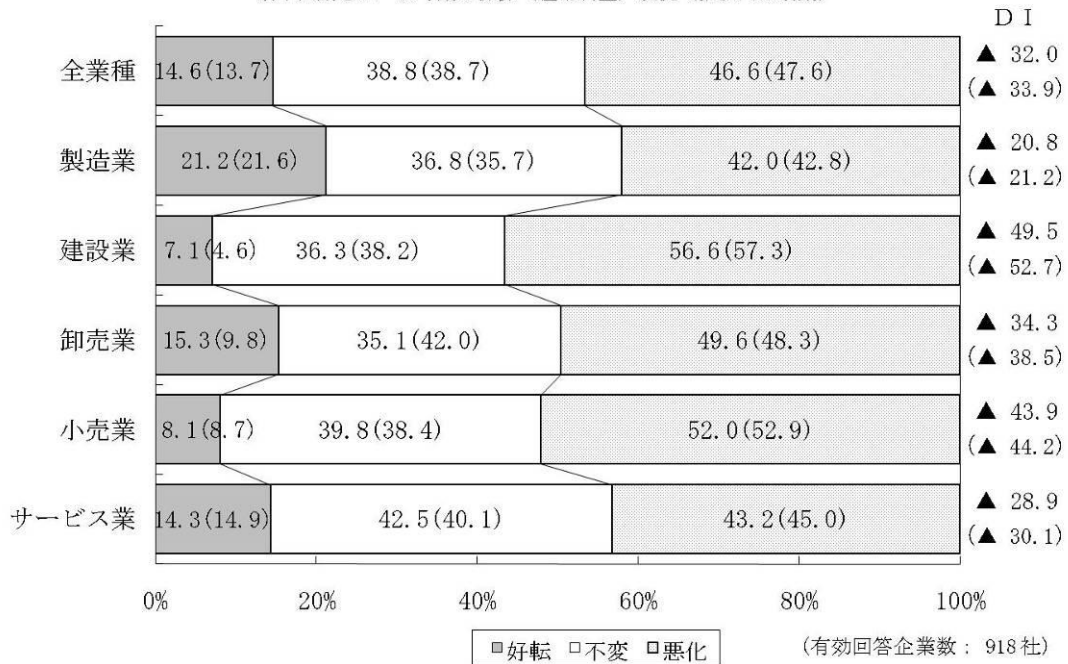
○「採算DI」（全業種）は、前年同期比で6期連続マイナス幅が縮小したものの、今期水準では4期連続したマイナス幅縮小から拡大に転じ、来期見通しでもマイナス幅が拡大した。今期水準では小売業が大幅に悪化、来期見通しでは製造業が大幅に悪化した。

採算DIの推移（全業種）



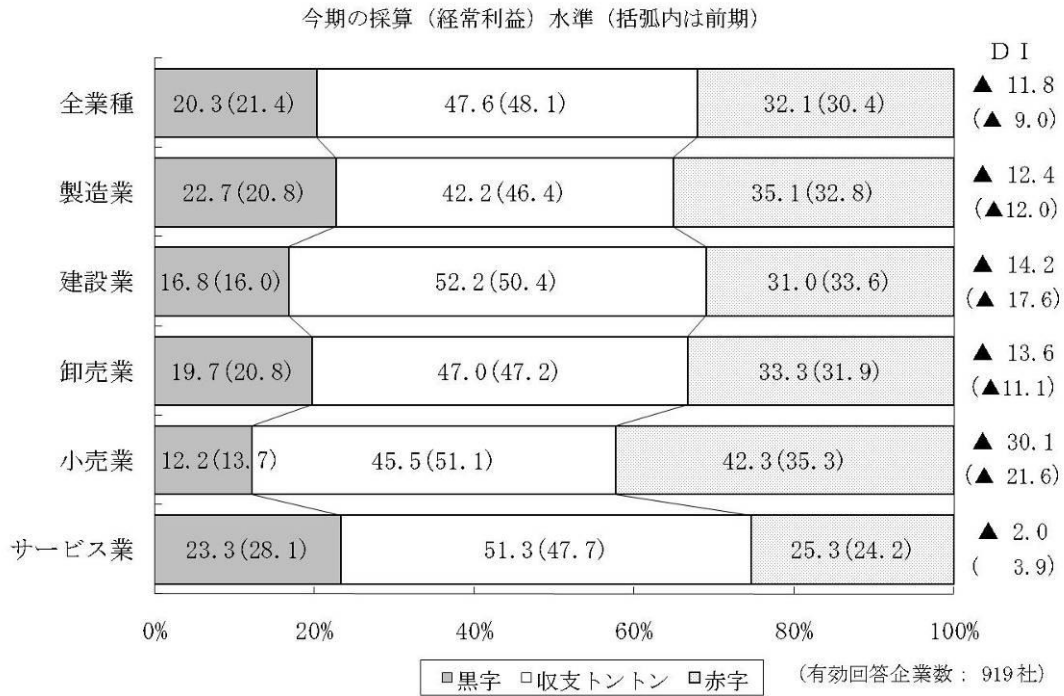
【質問7】前年同期（平成21年7～9月期）と比べた今期（平成22年7～9月期）の採算（経常利益）状況はどうか。

前年同期と比べた今期の採算（経常利益）状況（括弧内は前期）



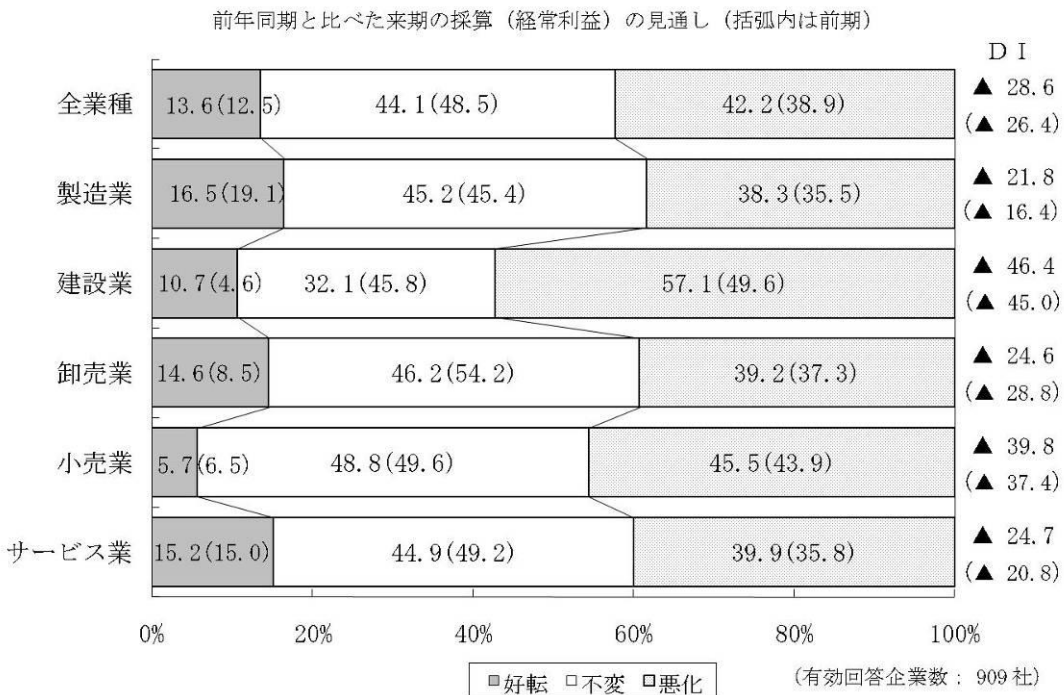
- ・全業種の「前年同期と比べた今期の採算DI」は前回調査に比べ+1.9ポイント（▲33.9→▲32.0）となり、緩やかながらも6期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・製造業、小売業ではほぼ横ばい、建設業、卸売業、サービス業ではマイナス幅が縮小した。

【質問8】 今期（平成22年7～9月）の採算（経常利益）水準はどうか。



- ・全業種の「今期の採算水準DI」は前回調査に比べ-2.8ポイント（▲9.0→▲11.8）とマイナス幅が拡大した。
- ・卸売業・小売業・サービス業でマイナス幅が拡大、特に小売業では前回調査に比べ-8.5ポイント（▲21.6→▲30.1）と大幅な悪化が見られた。建設業はマイナス幅縮小、製造業はほぼ横ばいとなった。

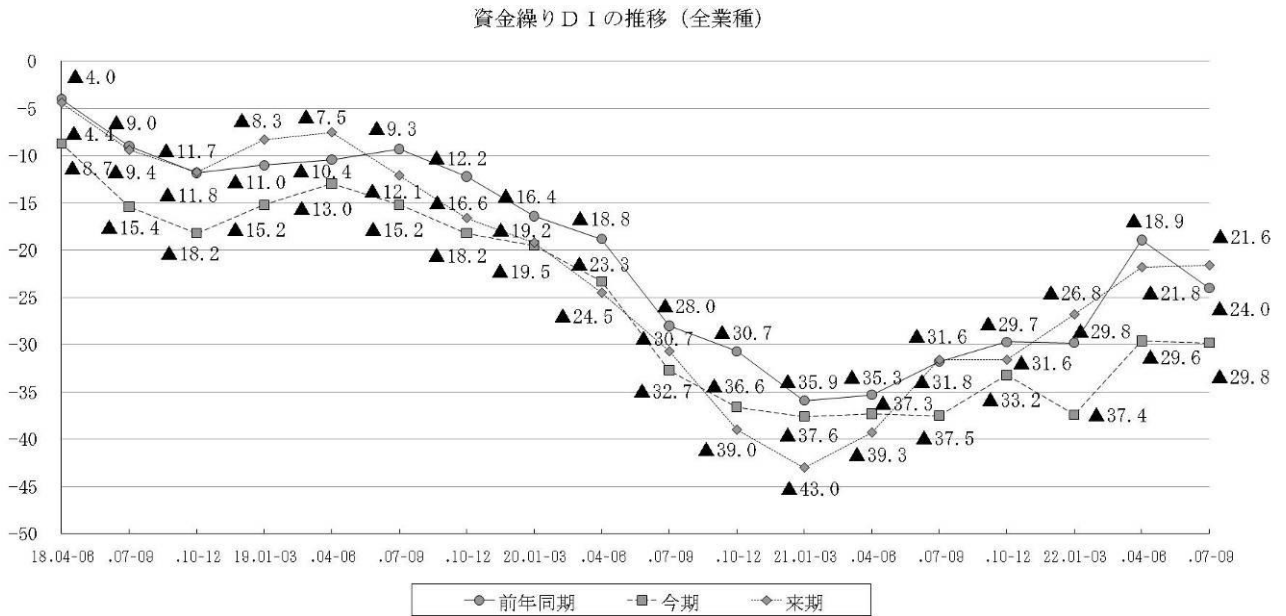
【質問9】 前年同期（平成21年10～12月期）と比べた来期（平成22年10～12月期）の採算（経常利益）の見通しはどうか。



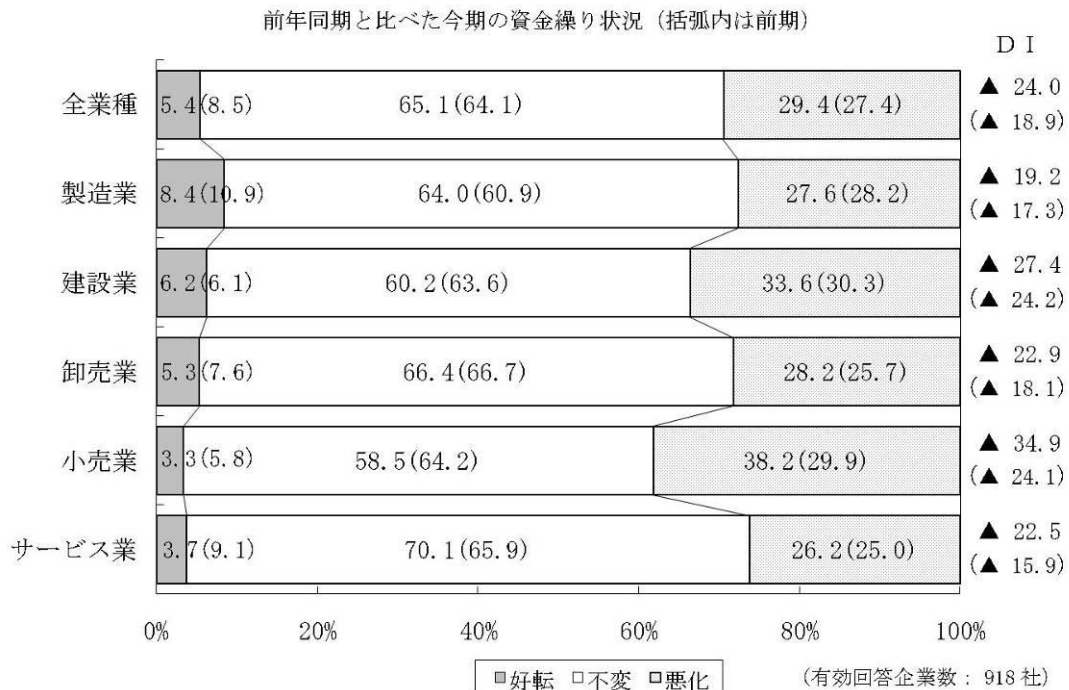
- ・全業種の「前年同期と比べた来期の採算見通しDI」は前回調査に比べ-2.2ポイント（▲26.4→▲28.6）とマイナス幅が拡大した。
- ・卸売業を除く全ての業種でマイナス幅が拡大した。特に製造業では前回調査に比べ-5.4ポイント（▲16.4→▲21.8）と悪化しており、先行きへの強い懸念がうかがえる。

## 4. 資金繰り

○「資金繰り DI」(全業種)は、前年同期比でマイナス幅が大幅に拡大、今期水準、来期見通しいずれも横ばいとなった。前年同期比で小売業、サービス業が悪化した。



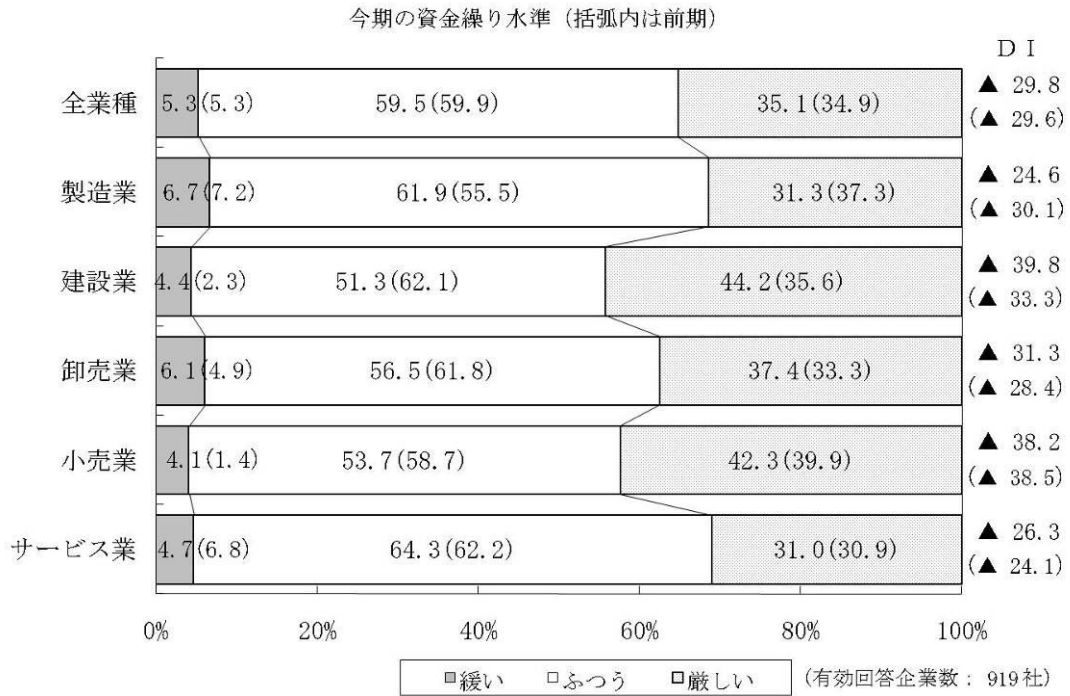
【質問10】前年同期(平成21年7~9月期)と比べた今期(平成22年7~9月期)の資金繰り状況はどうですか。



- ・全業種の「前年同期と比べた今期の資金繰り水準 DI」は前回調査に比べ-5.1ポイント(▲18.9→▲24.0)とマイナス幅が大幅に拡大した。
- ・全ての業種でマイナス幅が拡大した。特に小売業では-10.8ポイント(▲24.1→▲34.9)、サービス業でも-6.6ポイント(▲15.9→▲22.5)と、前回調査に比べ大幅にマイナス幅が拡大した。

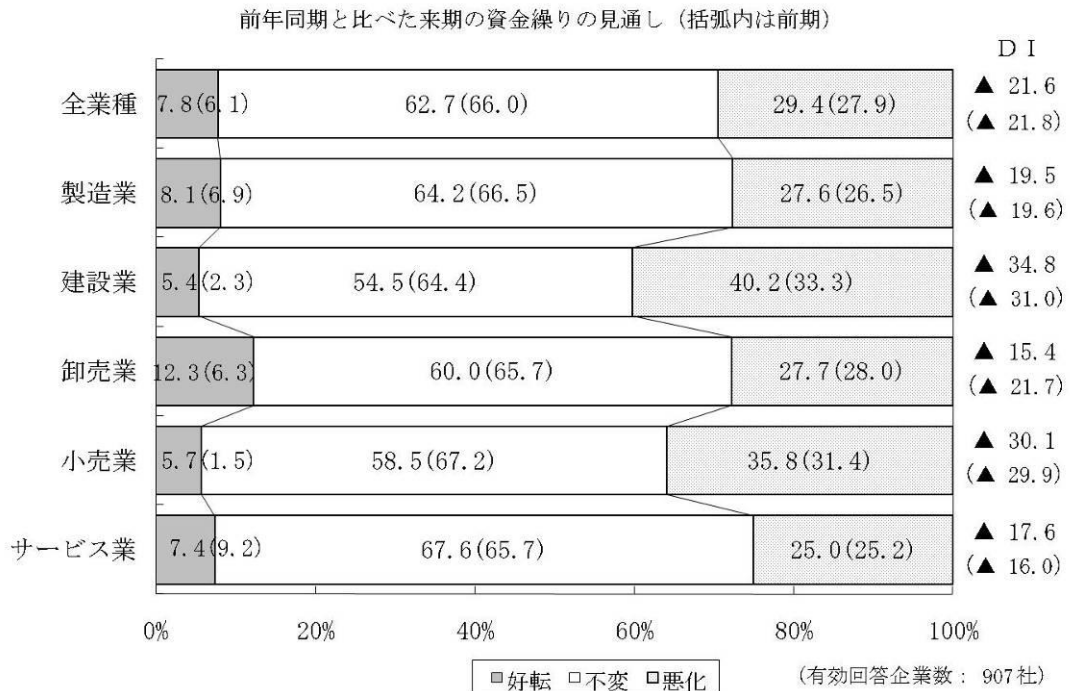


【質問 1 1】 今期（平成 22 年 7～9 月期）の資金繰り水準をどのように感じますか。



- ・全業種の「今期の資金繰り水準 DI」は前回調査に比べ-0.2 ポイント（▲29.6→▲29.8）となり、ほぼ横ばいとなった。
- ・製造業ではマイナス幅が縮小、小売業ではほぼ横ばいとなった。建設業・卸売業・サービス業でマイナス幅が拡大した。

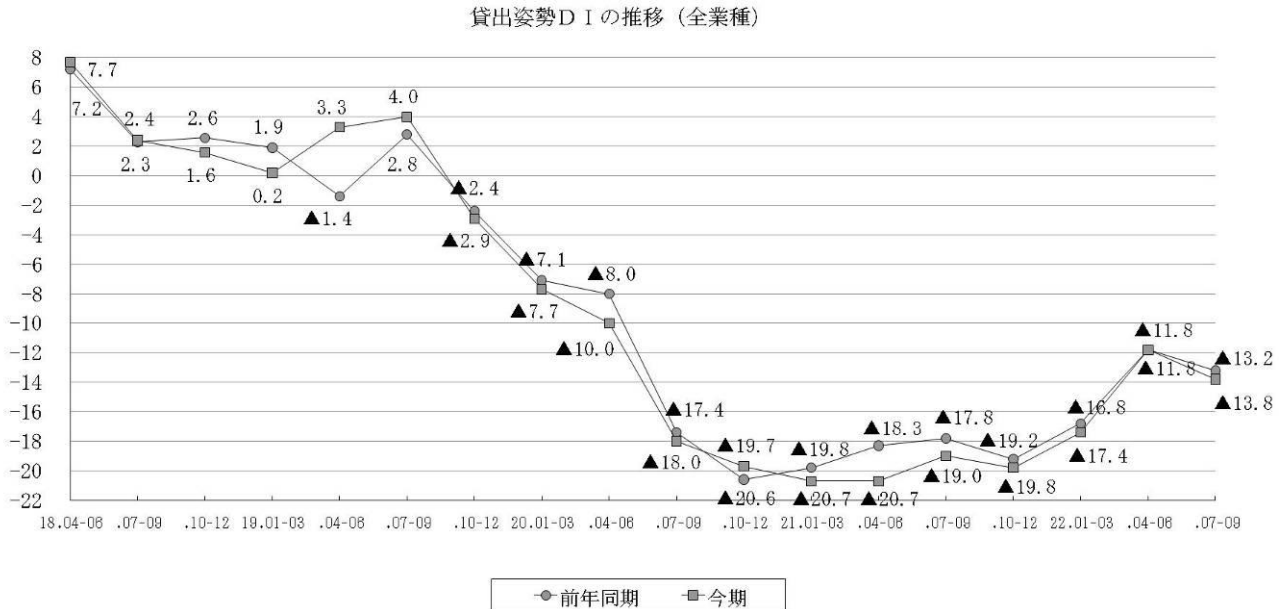
【質問 1 2】 前年同期（平成 21 年 10～12 月期）と比べた来期（平成 22 年 10～12 月期）の資金繰りの見通しはどうか。



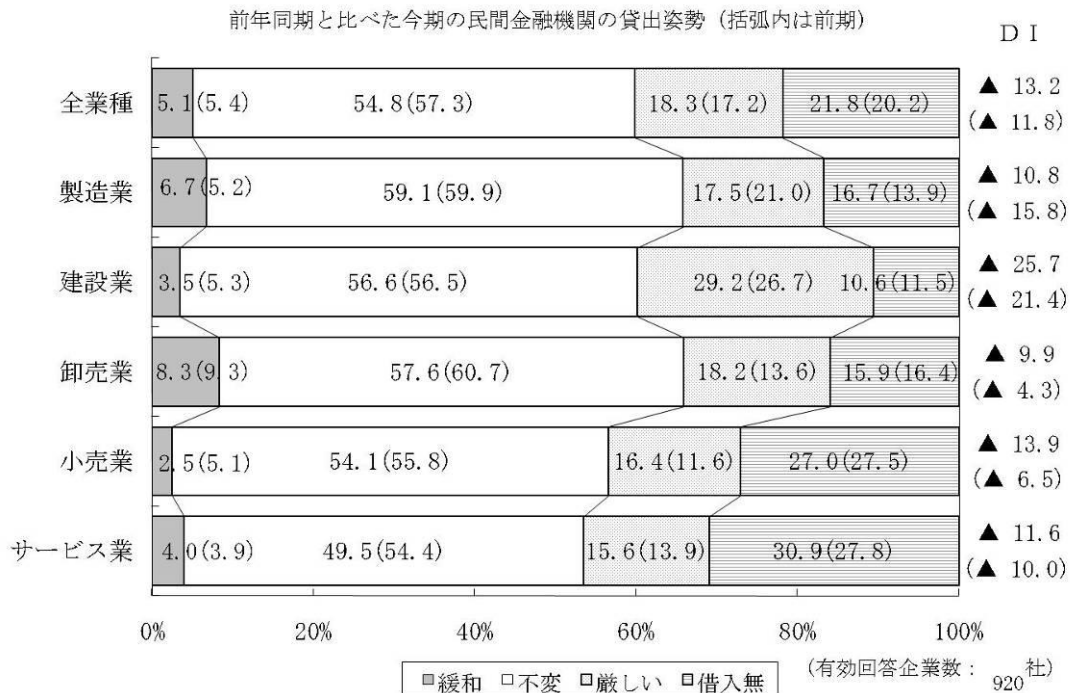
- ・全業種の「前年同期と比べた来期の資金繰り見通し DI」は前回調査に比べ+0.2（▲21.8→▲21.6）とほぼ横ばいとなった。
- ・卸売業ではマイナス幅が縮小、建設業とサービス業ではマイナス幅が拡大した。製造業と小売業ではほぼ横ばいとなった。

## 5. 民間金融機関の貸出姿勢

○「民間金融機関の貸出姿勢 DI」(全業種)は、前年同期比、今期水準ともにマイナス幅が拡大、2期連続した改善傾向から悪化に転じた。

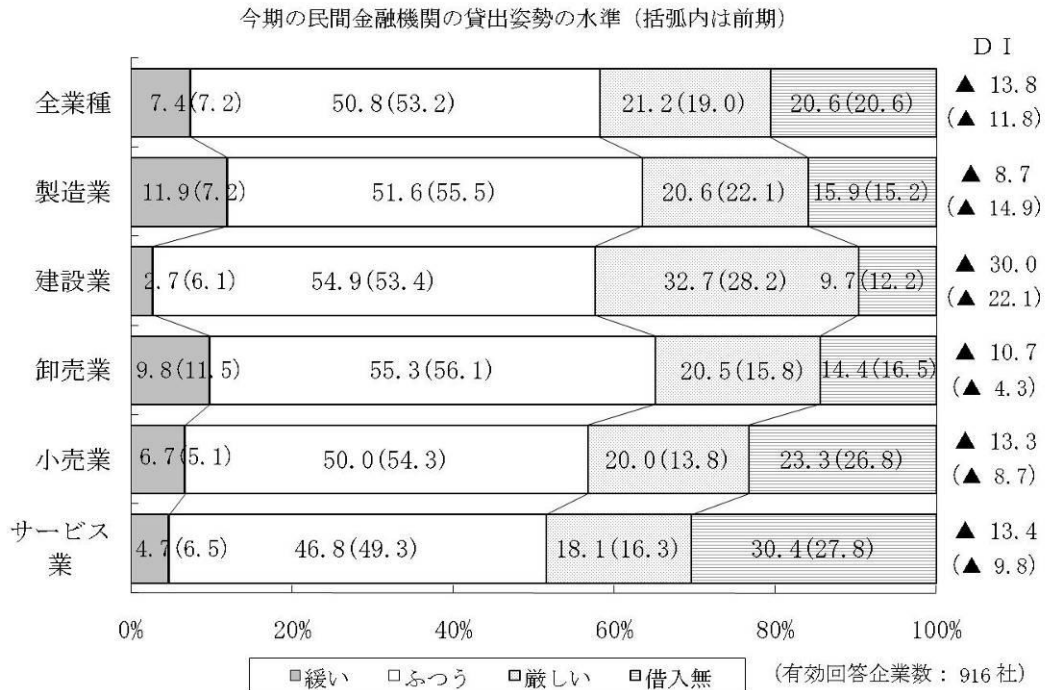


【質問13】前年同期(平成21年7~9月期)と比べて、今期(平成22年7~9月期)の民間金融機関の貸出姿勢は、変化がありましたか。



- ・全業種の「前年同期と比べた今期の民間金融機関の貸出姿勢DI」は前回調査に比べ-1.4ポイント(▲11.8→▲13.2)となり、わずかながらマイナス幅が拡大した。
- ・製造業を除く全ての業種でマイナス幅が拡大した。特に小売業では-7.4ポイント(▲6.5→▲13.9)、卸売業でも-5.6ポイント(▲4.3→▲9.9)と、大幅に悪化した。

【質問14】今期(平成22年7~9月期)の民間金融機関の貸出姿勢の水準をどのように感じますか。



- ・全業種の「今期の民間金融機関の貸出姿勢DI」は前回調査に比べ-2.0ポイント(▲11.8→▲13.8)とマイナス幅が拡大した。
- ・製造業を除く全ての業種でマイナス幅が拡大した。特に建設業では-7.9ポイント(▲22.1→▲30.0)、卸売業でも-6.4ポイント(▲4.3→▲10.7)と、大幅に悪化した。

- ※ 本集計結果におけるDI値とは、「好転」「良い」「増加」「好調」「黒字」「緩和」「緩い」とする企業の割合から、「悪化」「悪い」「減少」「不調」「赤字」「厳しい」とする企業の割合を差し引いた値を表す。
- ※ 本集計結果における前期とは、平成22年4月~6月期調査を表す。
- ※ 全ての質問について、割合は四捨五入を行っているため、必ずしも合計が100.0%にならない。
- ※ 本調査結果の集計にあたっては、独立行政法人中小企業基盤整備機構が実施している「中小企業景況調査」の調査結果を一部活用している。